

シング

<https://www.werunclub.net/>



楊 博社長

[生年月日]1974年5月3日 [出身地]中国 [最終学歴]大阪大学大学院
[趣味]登山、ランニング [尊敬する人物]Slash (ギタリスト) [座右の銘]樂在其中

オンラインイベントが開催できる歩数計アプリ「WeRun」が健康意識の高いユーザーをつなぐ

社長も社員も健康や運動へ高い関心を持つ同社が開発した歩数計アプリ「WeRun」。数多くの歩数計や健康管理のアプリとはひと味違う、「WeRun」ならではの人々をつなぐ機能がコロナ禍で新たな価値を生み出している。

―― 事業内容は。

楊 主にオフショアのソフトウェア開発を行っています。会計ソフトや人事・給与、在庫管理、販売管理などの業務系ソフトウェアの開発が多いですが、最近では自社商品の開発にも注力しています。

―― 創業の経緯は。

楊 大学院を卒業後、某自動車メーカーの子会社で自動車向けのソフトウェア開発をしていました。ITバブルが崩壊した2000年当時、堀江貴文氏ほか、多くの若手経営者が台頭するなか、起業への関心が高まり、独立を決めま

した。最初の企画は事業化できなかつたのですが、その後、自身の強みを掘り下げるうち、日中間のビジネスを考えるようになり、オフショア開発での起業に至りました。

―― 現在、注力しているという自社開発の商品とは。

楊 2年前にローンチしたスマホアプリ「WeRun」の認知拡大に注力しています。これは利用する企業、団体、グループなどがアプリ上で自由にウォーキングイベントを開催できる歩数計アプリです。コロナ禍での健康維持やオンラインイベントの一環として

利用され、ユーザー数が拡大中です。特徴は、とにかく簡単に利用できること。入力などの手間はなく、自動で運動状況を収集できるようにしています。また、アプリと専用デバイス「WeBand」を連携することで、歩数以外にも睡眠などのデータを収集した健康管理が行えます。

―― 今後の展望は。

楊 今は「WeRun」に集中し、健康・運動に関するプラットフォームとして成長させたいです。ユーザー同士の交流や企業・団体とのコラボレーションのほか、さまざまなバイタルデータを一元管理できるサービスに育て上げていと考えています。

「WeRun」は個人でも利用できますが、グループでの利用を想定しています。企業の健康経営や福利厚生の一環としての社内イベントなど、コロナでリアルに会えない方たちをつなぐコミュニケーションツールとして活用していただきたいと思います。現在地方自治体とも連携してオンラインイベントを開催していますが、コロナ禍で

【設立】
2003年10月
【資本金】
1500万円
【従業員】
12人
【所在地】
大阪市中央区